

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2894400130 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 あまのほ | | |
| 事業所名 | グループホーム 楽々むら | | |
| 所在地 | 兵庫県豊岡市城崎町楽々浦419-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年11月25日 | 評価結果市町村受理日 | 2014年3月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.hyogo-kai.go.com/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西 | | |
| 所在地 | 兵庫県川西市中央町8-8-104 | | |
| 訪問調査日 | 2013年12月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 職員は一人一人を把握し最期まで安全に安心した生活が送れるように支援している 積極的に看取りもやっている ご利用者と共に献立を考えおいしい食事作り力を入れている 看護師・医師との連携がとれており、また近隣にドクターヘリの離着地があり緊急時の対応も迅速にできる 理念である“ここにいきいきゆったり”を念頭に“ここで良かった”と思える暮らしを目指している ボランティアやいきいきサロンなど地域交流に力を入れている 職員への教育、研修等充実しており、各々のスキルアップが図れている 敷地内に法人の他事業者があり、大きな行事を一緒に行ったり情報交換や協力体制が万全である 自然に恵まれた環境にあり四季を感じ、心やませることが出来る 散歩にも最適である 常に家族との連携をとり“共に支え合う”ことを意識している |
|---|

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>県内有数の温泉地であり、国立公園内に立地した自然環境に恵まれた事業所である。ユニットを挟むロビーの大きな窓からは、支流に浮かぶ厳島神社の鳥居がまじかに見える。建物内もゆとりある広さが確保され、ゆったりした時間が流れている。開設2年目を迎え、4月から利用者も一緒に夕食を手作りし、食事をより楽しむ取り組みを進めている。利用者自身のこれまでの暮らしが維持でき、役割が発揮できるようアセスメントの充実に努め、さらには生きがいの創出にも活かそうとしている。職員は認知症の理解を深め、医療面での安心とともに、最後まで笑顔でいきいきとその人らしい生き方を全うするための環境を整え、そのために日々研鑽にも努めている。今後は、認知症の啓発推進、防災対策の充実等、地域との連携をさらに押し進めていかれることを期待したい。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 各職員の名札の裏には理念を書いたカードを入れ常に共有、意識して実践に繋げている。会議や委員会、研修等皆が集まる場所では復唱する機会を設け、また困った時や迷った時は必ず理念に戻るよう導いている | 法人理念である「にこにこいきいきゆったり」を職員はケアの根幹と捉え、常に意識して実践に努めている。会議や研修の度に、職員一人ひとりが日々のケアを振り返り、自らが立ち返る原点ともなっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のボランティア活動には職員が参加し交流している。また地域の方のボランティアによる催しも随時取り入れ交流を大切にしている。今年度より地区のいきいきサロンにも参加し施設を理解していただいたり交流の機会をひろげ、馴染の関係が構築されつつある | 地域の季節行事に利用者も一緒に参加し、草刈や清掃には職員が参加している。10月開催の法人主催の祭りには、地域の住民や中学校、家族の多数の参加を得、盛況であった。地域のボランティアによる催しやサロンでのゲームやお茶会は、利用者の楽しみとなっている。次回は事業所での開催を予定している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | いきいきサロンを利用し、地域の方に認知症についての話をする機会を設けた。今後、簡単な介助方法などを勉強する機会も設けたいと考えている。4月には全職員を対象に、認知症サポーターの養成講座も受けた。職員各々が地域で“できる事”を意識 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では日々の取り組みを報告し評価、助言をして頂いている。内容については、ユニットに報告をし、改善や新たな取り組みに繋げている。 | 区長、民生委員、地域包括、家族、利用者が出席。地域代表者からは、地域の情報提供等があり、活発な意見交換となっている。今後に向けた防災対策についての関心も高く、協力体制に向けた検討も考えている。 | 貴重な情報交換の場として、家族や地域へのミニ講座など、事業所からの情報提供等の機会としての工夫も検討されてはどうだろうか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議では、地域包括センター職員・民生委員・区長に参加を依頼し、実情を報告、評価や助言を頂いている。特に区長に関しては、区民と施設との橋渡し役として、あらゆる場面で交流を行い、常に良い関係が築けている。また豊岡市の開催する地域密着型サービス事業者連絡協議会に | 法人設立から事業所開設にあたって、市担当者との協力体制が築かれてきている。地域ケア会議や地域密着型サービス事業者連絡会議では、市担当者から随時情報提供があり、他事業所も含め活発な意見交換、情報共有が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | リスク委員会を設置し、常に拘束、虐待については話し合いを行っている また、身体拘束研修も行っている | 法人全体で委員会を通じ、研修、事例検討を行い、報告研修により全職員で学ぶ機会を持っている。普段の会議では、不適切なケアへの気づきを出し合い、利用者個々への対応について意識統一を図っている。玄関は併設施設との併用により、普段は施錠しているが、出入りに応じて開錠している。 | 事業所内スペースとしても十分な広さがあり、利用者の状況に応じて昼間、開錠する時間を確保できないだろうか。 |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | リスクマネジメント委員会を設置し、常に拘束、虐待については話し合いを行っている ユニット内でも、迷った時には“本人の思いを無視する事は全て虐待にあたる”という事を念頭に置き、ケアの方法を見出す努力をしている | 拘束同様、委員会でも研修を実施している。ユニット会議で、特に言葉かけでの語尾の使い方に注意するなど、接遇面でのスキルアップにも努め、職員間の意識統一を図っている。職員の心のケアの体制整備に努め、管理者による個人面談、専門家による相談にも対応している。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | ご利用者の中にも制度を利用している方があり、身近に感じられるようになった。資料をユニットに置きいつでも見れるようにしている。なんとなくは理解できているが活用には至っていない | 契約時、必要に応じて制度等の情報提供、資料案内は行っているが、特に、職員への制度に関する研修は未実施である。現在、該当者がおり、制度が身近なものになってきていることから、理解を深める研修実施とともに、啓発に向けた取り組みも検討していく予定である。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 面接の時点で施設の考え方や、方針等をしっかりと話している。また契約時には、しっかりと時間を取って説明を行い、また質問をしやすい雰囲気を作っている | 契約に至る前の面接時に、事業所の方針等を説明することで事前に理解を得ている。契約時は資料を基に丁寧な説明を心がけ、納得してもらえるよう十分時間をかけている。入所後の家族の協力の必要性も重視して説明している。制度等の変更があった場合は、事前に家族会で説明、文書で通知している。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 定期的に家族会の場を設けたり、アンケートなどを実施し、家族・利用者の要望の把握、それに対するユニットでの話し合いの場を設けている。また、ケアプラン送付時には返信用封筒と一緒に、意見・要望用紙を添付している。面会時にはできるだけ話しやすい雰囲気をつくったり、何か問題や心配をかかえておられそうな家族には積極的に話を聞いている | 年1回家族総会及び終了後の懇談会、年2回の窓ふきや行事参加の際に、家族代表者及び他家族と意見交換、個別に話しをしている。利用者、家族へのアンケートからの意向の把握、普段の来訪時での個別の相談等、折にふれ家族と話しをするように努めている。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ユニット会議には管理者も出席し、現場の職員の声に耳を傾けている。その場で解決できる事は解決し、組織全体で話し合うべき内容は、必ず代表者に相談をしたり会議に持ち寄るようにしている またアンケートや個人面談も実施している | 委員会や会議等で、職員は積極的に意見や提案を発言し、管理者も職員の主体性を尊重し、働きかけている。利用者の外出やレクリエーションについては、自ら企画提案があるが、運営に関する意見等はまだない。管理者による個人面談やアンケートからも意見の収集に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得に向けてのフォローアップや研修への参加など、向上心がもてるような環境を整えている。外部研修、施設内研修の費用、超過勤務手当などもしっかりとしており、学ぶことへの意欲が高められるようフォローアップしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員に関しては、OJTの仕組みを確立している。また日々の中での各々が成長できるようリーダーを中心にその都度声掛けや、意見交換を行っている スキルアップ委員会を中心に内部、外部の研修も計画的に行っている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他施設との実践研究発表会、またテーマを決めての研修を行い一緒に勉強をしたり、意見交換する場を設けている 先日もリーダーを中心に交流を行い他施設の様子を聞くことができたので参考にしていきたい また外部研修参加の場で他施設との情報 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|---------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面接時の情報を元に、利用者、家族の思いを把握して、PCや引継ぎノート、ショートカンファレンスで情報を職員全員で共有し利用者と家族との信頼関係を築いている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 特に入所当初に関しては施設での様子をPCに詳しく記録を残すようにしている。また担当職員をはじめ管理者等が家族に施設での生活の報告を電話等で行っている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面接時には、しっかりとした聞き取りを行い、何に困っているのかの把握を行い、そのうえで入所を決定している。面接時の聞き取りを基にケアプランを作成し必要なサービスを行っている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 基本情報や関わりの中で得意な事、苦手な事、好きな事、嫌いな事を把握している。1日を過ごす中で料理、裁縫、家事等、レクリエーションを通して興味を引く物を探している | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 困りごとや、提案等はその都度、家族に相談をしている。ご利用者にとって何が一番良い事なのかを家族と一緒に考えて答えを見出している | | |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 特養、ショートステイ、デイサービスがある中で馴染みの人や、昔からの知り合いに会う事が出来る。しっかりと職員が把握を行い、一緒に会いに行くようにしている。外出企画で自宅や馴染みの場所に家族と出かける事も行っている | 併設施設の利用者が、事業所の利用者の知人や馴染みの関係であった場合、本人の希望に応じておしゃべりを楽しみにしている人もいる。馴染みの美容院や店に出かけることもあり、家族の協力を得て自宅や外食に出かける人もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入所時は職員が中に入り紹介等を行っている。利用者同士のおしゃべりの中でコミュニケーション等が取れるのがあれば間に入り橋渡しを行う。料理や家事等も一緒に行い“教えて頂く”という事を大切にしている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | グループホーム退所時にはも利用者の情報を移された先に提供。またその都度相談ができるように働きかけている | | |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所時の面談を行い本人の意向、望む暮らしの聞き取りをする。入所当初は不安と混乱の中で生活している。思いを受け止め傾聴する。言葉として発せられない気持ちを汲み取る。本人からの情報が困難な場合家族からの聞き取りを行っている | 利用者の普段の行動や様子から、些細な表情やしぐさの変化をキャッチするなど、常に観察を重視している。利用者の言動の裏側にあるその人の思いを推し量り、家族からの情報も参考に把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人の希望に添った生活を実現するためには、これまでの生活史を把握し、入所に至った経緯を知る必要がある。また本人の思い描いている生活に近ずけるため有する能力を知る努力をしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来る能力に対しての見極めと、負担にならない役割りの提供を行っている。生活の質を上げていくためには、思いを尊重し個別の対応を心掛けている。新しい試みを行い情報をチームで共有している | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現場での情報をつかみ、気づき、関わりの工夫を重ねて、本人がよりよく生きるためのケアの集積を行っている。家族のニーズや体調の変化、情報の共有と検討を重ねている。 | 職員からの気づきや意見を集約し、毎月のモニタリングを通して、利用者の状態確認を図っている。医療関係者からの意見や、家族の意向も反映した利用者自身がやりたい、好きなことを優先させた計画を作成している。原則、6か月ごとに見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の生活を個別に本人の言葉で記録しているケアワーカーからの情報をもとにプラン変更の依頼をうけ検討会を行っている。常に出来る事への気づきの目を持って計画の見直しを行っている。 □ | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 生活を豊かにし、楽しい日々を送っていたく為多様な支援の取り組みに柔軟に取り組んでいます。たったひとりのニーズであってもサービスとして組入れる必要があれば検討を行っている □ | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在近隣の協力をえて“いきいきサロン”等に取り組んでいます。少数人数ですが少しずつ参加し近隣ではあるが外との社会的な繋がりをたもっています。近隣の方にも施設イベント等にボランティアに協力してもらおう取組を行っています | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 嘱託医を中心とし、精神科・歯科等の専門医への往診、相談体制を整えている。その他の医療機関へも家族、利用者の理解、協力をえながら行っている | 約1割の利用者が、以前のかかりつけ医の受診を継続、他は納得して法人の嘱託医を主治医としている。内科、精神科、歯科の往診があり、他科受診は原則家族が同行。受診時は家族に利用者の体調等口頭で伝え、受診後も家族から結果報告を受ける等適切な受診支援がされている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の状態の変化はその都度看護師に報告し、記録にも残して情報を共有している。早い段階での状態変化や異常を察知し看護職かかかりつけ医に相談する体制を整えている | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者に関する情報を病院に提供している。家族、医師等と話し合い場を持ち退院に向けて利用者、家族の不安や心配を軽減に努めている | 入院中は、管理者が職員のメッセージを持参し見舞いに行っている。早期退院に向け、病院関係者と話し合いの場を持ち、退院後の事業所での対応等検討している。法人の看護師が一日一回事業所を訪問し、利用者の体調把握と変化への対応を行い、入院回避に努めている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 体調変化時には、医師より家族に対し、状態の説明や今後の意向の確認を行う。その結果を踏えグループホームでできる事の説明や家族の思いの聞き取りを行う。その後看護師、介護士、ケアマネ等での終末期に向けてのカンファレンスを行い臨んでいる | 2名の看取りを行った。現在1名看取り介護中である。看取りにあたっては、主治医が家族に状況説明を行い、意向を確認している。状況変化に応じその都度、医師からの説明があり、管理者も一緒に家族に寄り添い、本人本位の支援を心がけている。職員、ケアマネ、看護師で話し合い、チームケアに取り組んでいる。家族も事業所に泊まり、本人と一緒に過ごすことができる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年に1度、消防署の協力して頂き救命救急方の講習を職員全員が参加している。施設でもマニュアルを作成し急変や事故発生時に備えている | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行っている。施設で作成したマニュアル等で災害時にどの様に職員が行動するかを把握している | ケアハウスと合同で、年3回夜間想定も含め、避難訓練を行っている。その他月1回、避難に関するビデオ鑑賞、消火器の使い方、人工呼吸等、職員間で研修している。備蓄は毛布、非常食を準備。今後は地域の消防団や地域住民へ協力を要請したいと考えている。 | 消防団や地域の人々に、協力が得られるよう日頃から話し合い、一緒に訓練を行う等の実践的な取り組みを期待したい。 |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 外部評価 | | |
|----------------------------------|---------|--|--|---|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全室個室で自分の時間を持ちたいときにはプライバシーを確保できている。しかし、共通のトイレや入浴となると職員が入り出すので守り通せていない。言葉かけも気を付けている。 <input type="checkbox"/> | 羞恥心に配慮し、トイレ誘導時は言葉がけに注意している。名前は苗字で呼び、丁寧な言葉遣いを基本としている。トイレ、入浴時でもできることは自身で行ってもらい、自立支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 朝食がパンであった場合、ジャムを3種類ほど提示し希望を聞けるようにしている。また、お粥の日であってもパン固定、希望に応じてバナナなどの果物をつけて対応している。 <input type="checkbox"/> | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れを希望される方はいない。時々日光浴や散歩の希望があり、その時は対応できている。行事がある時にはその事を先に伝え、その行事に向けて動けるように気配りをしたいと思っている。 <input type="checkbox"/> | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 愛用の化粧品があり、洗面台に並べている。毎日それを使って手入れをしている。また、誰でも使える簡単なメイクセットを用意しており、それを使ってたまに職員にメイクをすることで楽しんでいる人もいる。 <input type="checkbox"/> | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 夕食作りで簡単な作業を手伝っていただいている。食事前後のテーブル拭きは率先して手伝って頂いている。 <input type="checkbox"/> | 調理済みの食事が届いていたが、事業所においておいしい食事を作ろうと職員間で話し合い、現在は夕食を調理している。利用者が皮むきや味見を手伝い、おいしいと評判である。外食で回転ずしへ行ったり、ラーメン屋を呼んで事業所で作ってもらったり、食事の楽しみが工夫されている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事以外にも10時15時に水分補給をしている。水分摂取量が少ない時にはアプローチはするが結果に結びつかないこともある。食事が入りにくい方には食事形態の見直しを行ったり、PTに助言をいただき、食事の姿勢を工夫している。 <input type="checkbox"/> | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科衛生士、歯科医に定期的に歯磨きのポイントを教えていただき、同時に困っていることにアドバイスをいただいている。また研修で理解を深める機会を持っている。 <input type="checkbox"/> | | |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日々の様子から排泄状態を把握し、様子を伺いながら排泄の誘導を行っている。都度体調なども考慮しながら排泄用品の検討を行っている | 各利用者の水分摂取量の目安も立て、個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導している。約3分の1弱の方が、自立している。おむつ使用者のため、理学療法士から助言を得て、利用者の負担が少ないおむつの当て方の勉強もしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックは毎日行っているため、無排便3、4日になると水分を勧めたりのもの字マッサージ、ホットパックなどの工夫をしている。薬に頼ることが多いが、下剤の指示が出て看護師と相談の上見送ることもある | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 施設内の行事や催しがある場合、午前中に勧める傾向がある。曜日は決めているが、無理に入浴を勧めることはしていない。 <input type="checkbox"/> | 週2回、午前中を主に入浴している。拒否がある場合は他の利用者に誘ってもらったり、他の職員が声かけしたりしている。無理強いせず、足浴で済ますこともある。入浴の楽しみは、職員と一対一のおしゃべりやゆず湯等季節感を味わってもらうこと。浴室はゆったりとして、機械浴もある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自分のペースで部屋に帰り休めている。生活のリズムが狂ってきたら日光浴を行ったり日中に活動するように心がけている。 <input type="checkbox"/> | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬のファイルを用意している。常に見れるようにユニット内に保管している。 <input type="checkbox"/> | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 張り合いや喜びに溢れている生活は出来ないが、週に1回の訪問パン屋を楽しみにしている。月に1回のお遣いで希望の品物を購入できる。 <input type="checkbox"/> | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | いきいきサロンに参加している。毎回こちらで人選をし地域の方と交流している。ようやく顔なじみの関係が築け、会話も弾むようになってきている。 なかなか希望の声が聞かれないので職員の働き掛けで外出支援をする事が殆どである。 <input type="checkbox"/> | 事業所の周りは、円山川の水辺が広がり、近くに神社もあり、天気の良い日は散歩を楽しめる。利用者の希望に添って、個別外出でショッピングセンターや回転ずし、喫茶店にでかけている。重度な方は外出の機会が少ないが、希望を聞いてできるだけ外出できるよう支援している。花見は利用者全員の楽しみである。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全員ではないが、金銭管理をしている。家族の合意の上預り金の取り扱いをしている。 <input type="checkbox"/> | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の理解が得られている場合は電話の希望があれば出来るように配慮している。 <input type="checkbox"/> | | |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 人間関係等に配慮しつつ、テーブル配置をしている。コルクボードの飾りつけをすることで季節を感じていただけるよう工夫をしている。 <input type="checkbox"/> | 広々とした窓から自然の採光が取れ、明るくて、清潔感のある共有空間である。4人がけのテーブルは、その時々利用者間の状況に合わせて、配置を工夫している。少し離れたところのソファで、一人でテレビを見ている利用者もいる。地域交流スペースは家族訪問時、利用者とゆっくり過ごせる場で、子どものおもちゃも用意されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースを活用することによってユニットから離れ一人で過ごしたり少人数で過ごせる。 <input type="checkbox"/> | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドやテレビの位置はある程度固定されてしまうが持ち込みの家具等、家族の方が本人を交えて配置している。 <input type="checkbox"/> | 広い窓のある明るい部屋からは、外の眺めが楽しめる。使い慣れた家具を持ち込み、アルバムや自分の作品を飾っている人もあり、居心地良くその人らしくつづる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内には手すりが付いていて歩くときに使っている。入浴時には個々に応じ簡易手すりを付けたり外して対応している。 <input type="checkbox"/> | | |